

英語での表現活動を通して学習意欲を高める指導法の研究 —ストーリー・リテリングにおける学習方略使用の有効性について—

長期研究員 星 由紀子

I 研究の趣旨

学習指導要領の改訂に伴い、生徒が英語を使用する場面を意識した、コミュニケーション能力の育成を目標とする授業実践がより一層求められている。これまでも、学んだ英語を使って表現し合う活動を取り入れてきたが、消極的な生徒も多く、学習意欲を向上させる授業の工夫が必要と感じている。生徒が学んだ英語を使用して「英語で伝えることができた」経験を重ねることが自信となり、学習意欲の向上につながるのではないかと考える。英語での表現を通して生徒の学習意欲を高める具体的な授業展開とその有効性を検証したいと考え、本研究を行うこととした。

II 研究の概要

1 研究仮説

英語での表現活動において、以下の手だてを講じれば、生徒の学習意欲の向上につながるであろう。

【手だて1】 ストーリー・リテリングを中心とした授業展開の工夫

【手だて2】 英語での言語活動を支える学習方略を取り入れた指導の工夫

2 研究の内容と実際

(1) 「英語学習」に対する生徒の意識

研究協力校の第2学年全生徒190名(普通科116名、情報会計科74名)へ、英語に関する意識調査を実施した。8割近くの生徒が英語学習に対して苦手意識を持ち、英語での表現活動に対する意欲も低いことが分かり、生徒が意欲的・主体的に英語学習に取り組む授業展開が必要であると感じた。

(2) ストーリー・リテリングを中心とした言語活動

この研究では、英語での表現活動の一つであるストーリー・リテリングを取り上げる。理解した英文内容について自分の言葉で要約をするように話すことで、コミュニケーション能力の育成をねらう英語での表現活動である。この英語での表現活動を通し

て、生徒は英語が通じたという経験や言いよどんだりする経験をする。そしてその中で、伝えたい表現や正しい表現に気付き、実際の言語使用の場に即した英語表現を身に付けていくのである。ストーリー・リテリングに向けた段階的な言語活動の中で、生徒の英語使用の場面も増やすことができるような授業展開をめざした。

(3) 実践授業で導入する「学習方略」の選択

学習方略指導は、生徒の意欲的・主体的な学習を促す手だての一つととらえられている。ストーリー・リテリングを実践する上で、生徒の言語活動に有効と思われる学習方略をOxford (1990) より選択し、生徒が意識して使用しやすいようキーワード化した。

「え」 絵から内容を予想する
「い」 言い換え、簡単な単語で表現する
「ご」 語彙から英文を理解する
「の」 ノートやメモを取りながら学習する
「ま」 まとめて関連付けて単語を理解する
「ほ」 方法を考えて学習する
「う」 うまくいったか自分の学習を振り返る

また、生徒への「英語の勉強方法」に関する意識調査の結果、選択した七つの学習方略の使用状況は、以下のとおりであった(図1)。

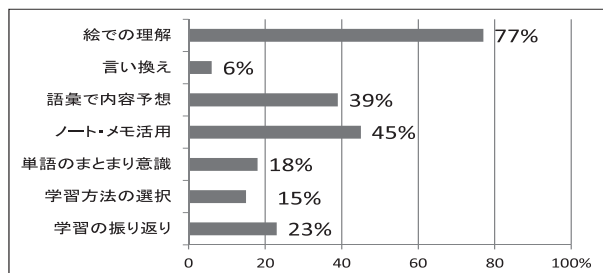


図1 学習方略の使用率

生徒の使用率は低いですが、使うことでストーリー・リテリングが容易になる学習方略を特に意識させた。教員が学習方略を言語活動に即して繰り返し意識的に指示することで、生徒は具体的使用方法を理解することができる。英語での言語活動へ学習方略指導を取り入れることで、生徒の主体的学習を促すことができると考えた。その積み重ねが英語学習に

対する自信を生み出し、学習意欲の向上につながる
と考え、学習方略を導入した検証授業を行った。

(4) 授業実践

① ストーリー・リテリングを中心とした授業展開 の工夫

普通科の全3クラスで、各クラス11回（7月、
9月、11月）授業実践を行った。教科書を使った
英語Ⅱの授業で、村野井（2006）のPCPP指導（提示：
Presentation，理解：Comprehension，練習：
Practice，産出：Production）の手順に七つの学習
方略を導入して展開し、英語での言語活動を多く取
り入れた。

段階を踏んだストーリー・リテリングとして、7
月の授業では英文を一人1文だったものを、9月の
授業では、数枚の絵に関する英文を一人3文以上に
増やして発表させた。11月の授業では「観光大使と
してツバルという国をアピールする」という目標に
向け、発表メモの作成や準備を進めた。グループ内
で絵を提示しながら英文内容を要約した後に、自分
の考えを英語で表現した。さらに発表者へ英語で質
問する時間を設けることで、コミュニケーション活
動を意識したストーリー・リテリングとすることが
できた。活動の評価の観点を事前に提示することで、
生徒は目的意識を持って活動に臨んでいた。

② 英語での言語活動を支える学習方略を取り入れ た指導の工夫

七つの学習方略から、授業ごとに学習内容に適し
たものを選択して指示した。毎時間の学習方略使用
の振り返りを通して、生徒は自分の学習方法を意識
することができた。学習方略の具体的使用場面は、
次のとおりである。

「え」	<ul style="list-style-type: none"> 絵から英文内容を予想する 絵から場面を思い出しながら英文を口頭練習する 絵を基にストーリー・リテリングをする
「い」	<ul style="list-style-type: none"> 言いよんだときは別の単語に言い換える
「ご」	<ul style="list-style-type: none"> 単語から英文の内容を予想する 単語を基にストーリー・リテリングをする
「の」	<ul style="list-style-type: none"> マッピングなどを活用してメモの取り方を工夫し、発表原稿を作成する
「ま」	<ul style="list-style-type: none"> まとめて関連付けて単語を理解する 主語＋動詞などの単語のまとまりを意識する
「ほ」	<ul style="list-style-type: none"> ストーリー・リテリングに向けた準備や発表方法を考えて学習に臨む 評価基準を確認して発表の準備や音読練習をする
「う」	<ul style="list-style-type: none"> ストーリー・リテリングがうまくいった理由、うまくいかなかった理由など自分の学習を振り返る

Ⅲ 研究のまとめ

1 研究の成果

(1) 意欲向上につながるストーリー・リテリング

初めは英語での表現活動に対し不安を示す生徒も
いたが、日本語での指示も入れながら、英語での表
現活動に段階的に取り組ませたことで、「英語で表
現する活動が楽しい」という記述が自己評価の中で
多くなった。言語活動の学習形態を工夫したことも、
学習意欲の向上に結び付いたと考えられる。意欲を
評価する観点として目標英文数を設けたが、全員が
目標英文数以上で発表した。毎時間実施した「英語
での授業へ意欲的に取り組むことができたか」に関
するアンケートの結果でも、英語学習に対する意欲
の向上が見られた（図2）。

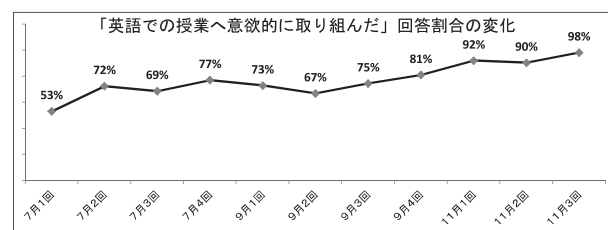


図2 英語の授業に対する生徒の意欲の変化

(2) 英語での言語活動を支える学習方略

英語での言語活動に適した学習方略を指示したこ
とで、生徒は具体的な使用方法を理解できたよう
である。「学習方略を意識して、英語でどう表現し、
活動したらよいかを考えるようになった」と、授業
後のアンケートで回答する生徒が多かった。ストー
リー・リテリングで話した内容を英語で書く確認テ
ストでは、約9割の生徒が学習方略を意識して目標
の英文数以上で表現することができた。

2 今後の課題

(1) 英語表現の定着を意識した授業展開の工夫

ストーリー・リテリングを通して生徒の学習意欲
を向上させることはできたが、学んだ英語表現の定
着に向けた授業展開も工夫していきたい。

(2) 生徒が自律して学習方略を使用することを目標 とした学習方略指導の工夫

教員が学習方略を提示することは、生徒の言語活
動の支えとなった。今後、さらに生徒が学習方略を
自ら選択して使用していくような、自律した学習に
結び付く指導の在り方を探していきたい。